



ロング昼休憩

今年の日課表の目玉は、毎週水曜日の「ロング昼休憩」です。

子どもたちに体力づくりと同時に、外遊びをしっかりとさせようと、いつもより10分長く35分間の昼休憩にしました。

これが、子どもたちになかなか好評で、「今日は、ロングだ!」「やった〜」と一目散に外に出て遊ぶ子どもが増えました。これまで、女の子が外に遊びに出ないことが課題でしたが、最近では、外で遊んでいる姿をよく見かけます。

ドッジボールをする子ども、バレーボールをする子ども、手打ちや鬼ごっこ(最近では、ハンターというそうです)をする子ども、一輪車、ブランコ、アスレチック、すべり台で遊ぶ子どももいます。

また、虫取りや草花採集をする子どももいます。

遊んでいる時、子どもたちは本当にいい顔をしています。授業中には見られないのびのびとした顔です。見ているこちらにも、思わず頬が緩んできます。

しかし、時にはけんかもあります。ボールを取った、取られた。アウトいやいやセーフだなど・・・

これも、子どもたちが社会性を身につけていくために大切なことです。人との関わりの中で、自分がどのような行動をしていくか。また、どこで折り合いをつけていくかなど、学ぶことがたくさんあります。

だから、子どもは「遊びから学ぶ」と言われるのです。

これから、湯来南小では、「ロング昼休憩」でドッジボール大会や長縄大会を行い、体力づくりに取り組むと同時に、仲間づくりにも取り組んでいきます。子どもたちの成長を楽しみにしていきたいと思ひます。



【子育てコラム】

中学校の保護者から「小学校の頃が一番良かったよ。」という声をよく聞きます。なぜでしょう。

中学生になると、クラブが忙しくなったり、親よりも友達優先の生活になったりするからだと思います。

だから、「小学校の間にもっと関わっておけばよかった。」とも言われておりました。

一年生だけでなく、六年生でもひざの上に乗りたいがることはありませんか。

親とのスキンシップを求めているのです。その時には、そっとひざを貸してあげましょう。

「大きくなったなあ。重たくなったなあ。」と子どもの成長を感じることでしよう。

朝、子どもが家を出る時、「行ってらっしゃい」のあいさつとともに、「頑張ってるね」の声かけや握手。学校から帰ってきたら、「お帰りなさい」

のあいさつとともに「頑張った?」と声をかけながら頭をなでてあげたり、握手したり。目を見て話をしたり、ご飯と一緒に食べたり。

そんな些細なことに、子どもは親の愛情や喜びを感じるのです。

子どもが、小学生の今がチャンス!

ほんの少しでも関わる時間や機会を持つと、

親子ともに笑顔が増えますよ。